今月の読み物

巨樹・巨木シリーズ27（BOOK-NO-6）
岐阜県-1

細田木材工業株式会社
顧 問　　細 田 安 治

巨樹・巨木シリーズ27は長野県から西に向かい岐阜県に入る。著名な巨樹・巨木が多数存在し、巨木愛好者としては興味深いエリアである。今回も資料提供してくれている探策者U氏の後を追っていく。

岐阜県は本州のほぼ中央に位置する。北部には飛騨山脈が連なる一方、南部には木曽三川（木曽川、長良川、揖斐川）が流れる平野が広がるという、豊かな自然に恵まれている。合掌造りで有名な白川郷や、古い町並みが続く飛騨高山など、伝統的な集落が山間に残っている。金華山に再建された岐阜城からは、名古屋市街、伊勢湾まで見渡すことができる。

また、岐阜市はアユ漁の鵜飼いで有名でもある。長良川うかいミュージアムでは、この古くから続く漁法の魅力についてわかりやすく紹介している。

岐阜県の面積は全国７番目で、面積約10,621Km2、人口約190万人。ちなみに長野県は全国で４番目に大きい県で、面積は約13,562Km2、人口約200万人、共に中部圏の森林県として存在感を示している。

更に日本統一を成し遂げた織田信長の出身地であり、数々の遺跡が残っている歴史ある県でもある。

今回は針葉樹を主として選木した。というのも、U氏は岐阜県を２日間かけて巨木40本探索したが、驚くなかれ、針葉樹のスギが半数強の21本を占めている。針葉樹の巨木が、しかもスギが、このように大量に残っている県は初めてだ。今風言葉で言えば、「メッチャ驚き」である。新しい発見があり前置きが長くなったが、これを大事にしながら書き進めたい。楽しみも増えると期待している。

＜筆者のつぶやき＞

岐阜、名古屋とは縁が深い。筆者は昭和41（1966）年、ツキ板業界に入った。同時に原木の仕入先として銘木業界へも足を踏み入れ、東京銘木協同組合に加入した。当時から銘木と称する巨樹の産地として岐阜県は群を抜き、銘木（原木）産地の流通基地として名のある銘木が集まっていた。

当時、銘木流通の要として役割を担っていたのは、岐阜銘木協同組合、愛知銘木協同組合、民間の会社としては平野木材など。全国から原木業者、加工業者、流通業者が集結する大きな流通機構であった。全国各地に銘木市場はあるも岐阜県は、地元産地の集荷力が圧倒的に強く、ここで相場が決まり、銘木が全国へ普及していった。繰り返しになるが、正に岐阜県は流通の要であった。筆者も岐阜へ足しげく通い銘木の丸太の入札に参加した。筆者のような駆け出しの銘木業者でも出入りできるほどの集散地であった。

写真番号-1 樹番号１　加子母（かしも）のスギ

樹齢1300年以上、樹周13m、樹高30m、根廻り20m　岐阜県中津川市加子母字池ノ森　国指定天然記念物

岐阜県ホームページより。

中津川市加子母池ノ森の地蔵堂裏手にあるこのスギは、幹周囲13.0m、樹高30.8mの巨樹である。このスギのもとには行基菩薩の手になる地蔵尊が祀られている。建久年間に源頼朝が江馬与四郎を訪ねた折、杖を逆さにさしたのが生えついて大杉になったと伝えられる。

＜筆者のつぶやき＞

杖を逆さにしたのが根付いて巨樹になるという言い伝えは、すでに弘法大師の杖が巨樹となった話をご紹介した。今回は頼朝だ。いろんなバージョンがあるとみえる。

写真１　加子母のスギ

写真番号-2 樹番号２　禅昌寺大スギ

樹齢伝承1200年、樹周10m、樹高41m　下呂市萩原町中呂1818　国指定天然記念物

JR禅昌寺駅東にある禅昌寺観音堂の裏手にこの大スギがそびえ立ち、辺りを睥睨（へいげい）している。

＜筆者のつぶやき＞

この大スギの特徴は、地上約1.6mの位置に直径２m余りある亀の甲羅のような形状の瘤を抱えていることだ。瘤はまるで赤ん坊が腰かけているように見えるのが不思議だ。この巨木は雌スギではないかと勝手に想像する。これも楽しみの一つだ。幹のさらに上部から６本の大枝を出し、雄大な姿をみせる巨樹である。(岐阜県ホームページを参考)

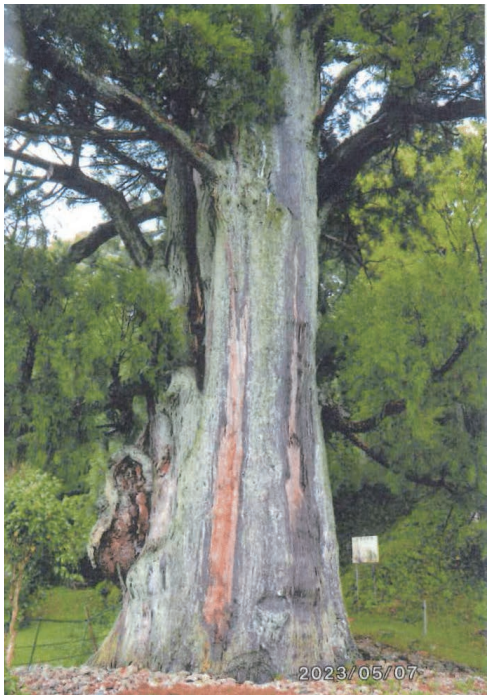

写真２　禅昌寺大スギ

写真番号-3-1、3-2 樹番号-3　久津八幡夫婦スギ

樹齢伝承1200年、根廻り約12m、幹周囲10.7m、樹高約25m（雄スギ）。幹周囲約8.9m、樹高約24.7m（雌スギ）　下呂市萩原町上呂　国指定天然記念物

岐阜県ホームページより。

この夫婦スギは下呂市の久津八幡宮境内にあり、本殿に向かって左後方に生える２本のスギを指している。ともにスギの巨樹として有数であるが、これまでの台風や強風などにより、幹や枝には多くの損傷が見受けられる。

＜筆者のつぶやき＞

久津八幡宮の夫婦杉とあるが、神社の本殿に立つ２本のスギは鳥居を見守るようそそり立っている。伝承1200年と称する樹齢からみてもおおよそ平安時代の睦まじき夫婦と見えぬこともない。

左にそびえ立つスギはいかにも男性としてどっしりと腰を下ろし、広い根張りをもち、揺るぎなく力強い感じを受ける巨樹である。一方の右のスギはスラっとしており、いかにも女性らしい巨木と勝手に決めつけた。左と右の根拠があるとすれば、雛壇に並ぶ雛人形、武者人形とも男性は左、女性は右になっている。夫婦杉もこの例に倣って勝手に想像できないこともない。読者の皆様いかがでしょうか。

写真３　久津八幡夫婦スギ

写真番号-4 樹番号30　新宮塚(しんぐうつか)のムクノキ

樹齢伝承400年、樹周6.5m、枝張り東6.5m、西6.0m、南8.8m、北8.8m、樹高28m　揖斐郡揖斐川町新宮102付近　県指定天然記念物

岐阜県ホームページより。

言い伝えでは、「関ヶ原合戦のとき、落武者鳥居左衛門がこの地へたどり着いた。親切な老婆から一飯の恵みを受けたが逃れる途中力尽きてここで倒れた。翌日、村人たちが墓標がわりにこの木を植えた。」といわれ、今も祟(たたり)があるとおそれられている。

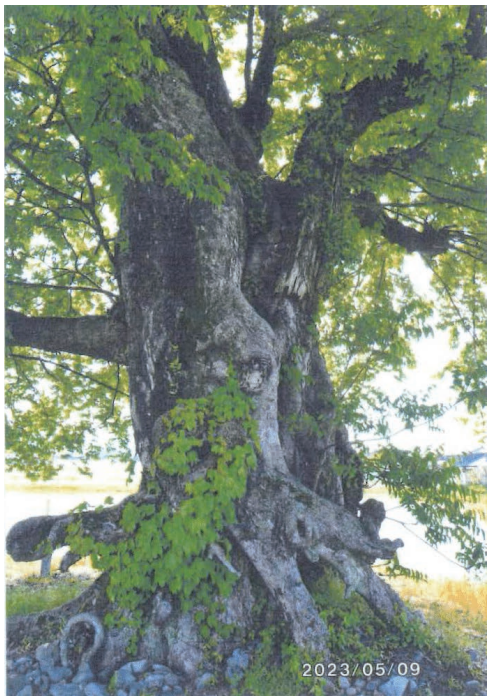

写真４　新宮塚のムクノキ

＜筆者のつぶやき＞

ムクノキとは聞きなれないので調べてみた。

ムクノキは（椋木、椋の木）アサ科ムクノキ属の落葉高木。またはエノキに似るためムクエノキ（椋榎）とも言う。ムクドリなどの小鳥が集まる木で知られる。ざらついた葉が漆器などの研磨剤に、硬い材は運動具などに利用される。成長が比較的早く、大木になるため、日本では国や地方自治体の天然記念物に指定されている巨木が多い。

大木になると樹皮が剥がれてくることから、剥く（ムク）からムクノキになったという説。あるいは、ザラザラする葉を研磨剤に用いたことから、「磨く」を意味する古語「むく」から「むくの木」となったという説がある。「椋」には「くら（蔵・倉）」の意味もある。

生育地は、日本国内では関東以西の本州から四国、九州でごく普通に見られ、屋久島、種子島にも分布する。主に山地から低地の森林内、山野に生育、温暖な沿岸地に多く、特に人家周辺や神社などによく見かける。落葉広葉樹の高木で、高さは20 ～30m 、幹の直径は1 m以上になり、板根が発達する場合もある。樹皮は淡灰褐色で、若木の表面はほぼ平滑だが、樹齢に伴って縦に網目状の割れ目が生じて浅い筋が入り、老木では樹皮が大きく反って剥がれてくるがケヤキのようにまだら状にはならない。https://ja.wikipedia.org/wiki/ムクノキより。

＜筆者つぶやき＞

ムクは椋、倉、蔵。剥く、磨くなど、多様な使い方がる。また、成長が非常に早く、林の空き地などでいち早く大木になり、巨樹・巨木となるが、樹齢は大きさほど古くない。しかし、成長が早いので、神社、仏閣、屋敷にも多く、歴史や、民話や、言い伝え、物語などに登場する巨木の有名樹になったのではないか、と推測する。

しかし、「木材や」として最も知りたいムク材の用途ついては、大昔は「しなう力」の強いムクの木が天秤棒に多く使われた。現在では教育家具などのほか芸術家の作品に使用されているようだが残念ながら、よくわからなかった。謎のある木として宿題にしておく。

天下分け目の関ヶ原の戦いは1600年、今から約400年余前のことだ。言い伝えでは、落ち武者の死を悼み墓標としてこの木を植えた、とある。となれば樹齢400年余となるが、このことを追及しても意味のな

いことだ。樹齢とはこのような大きなスパンで考えるものなのか？確かめようがないことだ。以前からもやもやしていたが、なんとなく納得したような気がする。

さてムクノキにまつわる、まったくの余談になるが、氏名と巨樹との珍しい偶然の一致にぶつかったのでご紹介したい。

「椋」でヒットしたのはなんと、プロ野球選手の椋木蓮（むくのき れん）選手だ。

オリックス・バファローズの椋木 蓮（2000年１月22日 生まれ ）は、山口県山陽小野田市出身のプロ野球選手（投手）。右投右打。オリックス・バファローズ所属。2024年に支配下登録されて一軍に昇格し、2025年シーズンはリリーフとして12試合に登板して０勝２敗、防御率6.93を記録した。来年のさらなる活躍を誓っている。木と氏（うじ）の偶然の一致である。（ネット情報参照）

写真番号-5 樹番号32　月見宮（つきみのみや）大スギ

樹齢800年、樹周5.8m、樹高25m　不破郡関ケ原町松尾　町指定天然記念物

関ケ原町 立て看板より

このスギの巨木は「関ケ原合戦圖屏風」にも描かれていて、樹齢は800年あまりと推定される。平安の御代より、長く時代の変遷をみつめてきたことは驚嘆に値する。その記録は幹の年輪に刻まれている。目通り5.8m、高さ25mと、貝戸大神宮大杉に次ぐ正にスギの横綱だ。

＜筆者のつぶやき＞

このスギがあるのは、春日神社である。境内には福島正則の陣跡がある。

威風堂々の素晴らしいスギである。

月見宮の名は、中山の方角に浮かぶ月が誠に美しく風流であったことから、この名が付いたと言われている。

写真５　月見宮の大スギ

筆者はネットにて「関ケ原合戦圖屏風」を見てみた。月見宮の大スギは「関ケ原合戦圖屏風」三扇の左下に描かれており、その姿は武人福島正則の陣跡に相応しく感じられるのを確認したかったのである。しかし、残念ながら左扇、右扇までは見ることができたが三扇は確認できず、大スギと福島正則の武人の姿も確認できなかった。ぜひともこの目で「関ケ原合戦圖屏風」を見てみたいものだ。

なお、関ケ原歴史民俗博物館資料館では、この大スギの折れた枝を利用した根付ストラップを販売している。つづく